

I 目指す学校

○スクール・ミッション

「努力」「自律」「英知」を教育目標に掲げ、次代の社会を担い、国際化の時代を生きて、伝統に根ざした新しい文化を創造し、世界と人類に貢献する人物を育成します。人権尊重の精神を基調に、自主性と責任感、適切な判断力と行動力を身に付け、洞察力と想像力に富んだ社会に貢献できる生徒を育成します。

○スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

- ・社会の変化に対応するために絶えず変化を予測し主体的に学び続けることができる。
- ・多様な価値観を受け入れ、協働や対話を通じて、解決策を生み出すことができる。
- ・社会における立場を鑑み、目標に向かって行動することができる。

(2) カリキュラム・ポリシー

- ・社会に目を向け主体的に学ぶことを通じて、世界と人類に貢献するための基礎的な力を身に付ける。
- ・協働や対話を通じて、多様な価値観を受け入れ自他ともに尊重する姿勢を身に付ける。
- ・自ら考え、目標に向かって継続的に努力をすることで「確かな学力」を身に付ける。

(3) アドミッション・ポリシー

- ・本校の教育をよく理解し、志望意思が明確であり、目的意識をもって学習活動に取り組むことができる。
- ・将来の職業や進むべき道を考え、大学進学等の目的意識をもち、その実現に取り組むことができる。
- ・生徒会活動、学校行事、部活動、ボランティア活動などに積極的に取り組んだ実績があり、入学後も幅広く活躍できる。
- ・基本的な生活習慣が身に付き、校則や社会の規範を守り、自分を厳しく律してはじめある生活ができる。

II 中期的目標と方策

授業を重視して基礎学力を身に付け、学習習慣の確立を図るとともに、学校行事や部活動にも積極的に取り組む意欲と向上心に溢れる生徒を育成する。全教職員が一丸となり、生徒と共に向上心をもって教育実践を進めることにより、中堅上位の進学校への飛躍を目指す。働き方改革を推進し、時間外労働に対する意識改善を図り、教職員の不公平感や残業・労働負担の少ないライフ・ワーク・バランスのとれた職場環境を作ること、生徒が充実した学校生活を送ることのできる組織的な指導体制を整備していく。そして、学習環境の整備と部活動及び学校行事の充実を目指し、きめ細かく丁寧な指導を心がけることで、生徒一人一人にとって面倒見の良い学校を目指す。

1 学習活動

スクール・ポリシーを踏まえて、学力調査等を通して本校生徒の学力を把握し、その結果も踏まえて常に指導内容、指導方法の改善を計画的・組織的に図りながら、学力の向上と学習習慣の確立に取り組む。

2 進路指導

進路指導部主導によるキャリア教育の視点に立った3年間の進路指導計画を確立するとともに、中堅進学校としての進学指導の質の向上を図り、生徒の進路希望の実現に努める。

3 生活指導

基本的生活習慣の確立と規範意識を高める指導を丁寧に行い、本校の伝統である落ち着いたおだや

かで、いじめのない校風を維持し、生徒の問題行動の早期発見や自殺予防に取り組み、生徒が安心して学習に取り組める環境を保証する。

4 特別活動・部活動

学校生活を充実させ、学習に取り組む意欲を喚起することを目指し、部活動や学校行事・生徒会活動の活性化を図るとともに、自主性や責任感、社会に貢献する心を育てる。

5 健康づくり

体育授業や部活動、本校の伝統行事である健脚大会への取組等を通し、生徒の体力向上を推進する。また、感染症防止対策・交通安全・生活安全・災害安全の指導や心と体の健康づくりを推進する。

6 募集・広報活動

学校説明会、中学校訪問、ホームページ、受験相談会、塾訪問等あらゆる機会をとらえて本校の特色と教育活動の成果を学校外へ積極的に伝える広報活動を、教職員の一致協力のもと行う。

7 学校運営・組織体制

本校の使命を達成できる機能的で活力ある学校組織を構築する。相互授業観察と校内研修の活性化により授業力及び指導力の向上に努める。経営企画室の経営参画を推進し計画的・効率的な予算執行を実現し、全教職員のライフ・ワーク・バランスを実施する。

8 国際理解教育

東京 2020 オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、取り組んできた国際理解教育を継続し、自国の文化を大切にしたいうえで、異文化理解を行い、世界に視野を向けた生徒を育成する。

9 特別支援教育

特別な指導・支援を必要とする子供が在籍するとの認識の下、特別支援教育に対応できる体制を構築する。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

○生徒、教職員が共に高い志と「向上心」をもって、それぞれが切磋琢磨する。

○新学習指導要領に基づいた学習活動が充実したものとなるよう更に研究・研修を重ねると共に、「総合的な探究の時間」と関連付けた組織的な教育活動の展開を図る。

1 教育活動の目標と方策

(1) 学習活動（確かな学力を育てるために）

学習規律、学習意欲、学習習慣の確立を図るための指導及び学習環境を保証するための支援の充実により、確かな学力の定着とさらなる向上を目指す。

- ① スクール・ポリシー及び実力テストに基づき、その結果分析によって授業改善を行う。校内研修により問題点を共有化し、生徒の進路希望を実現できるよう更に指導力の向上を図る。
- ② 課題・宿題・小テスト等を教科と学年が連携して計画的に課するとともに、予習・復習を前提とした授業を行うことで、生徒に学習習慣を身に付けさせる。生徒の学力向上に繋がり、生徒の探究力を伸ばす授業を、各教科で検討して実施する。
- ③ 全教科・科目で大学進学を意識した年間授業計画を年度当初に作成し、生徒・保護者に周知するとともにホームページにも公開する。
- ④ 新学習指導要領及びグランドデザインに基づき生徒の身に付けるべき力を明確にし、各教科において観点別の評価基準を作成し、生徒一人一人の学力を適正に評価する。
- ⑤ 習熟度別授業、少人数授業の実施や学力調査等の活用により、生徒一人一人に応じた指導の徹底と基礎学力の育成を図る。
- ⑥ 各教科・科目等の指導において、「アクティブ・ラーニング」の視点を持ち生徒による探究、発表、討議、ノート記述、レポート作成等により言語・探究活動の充実を図る。
- ⑦ 各学年・教科で、生徒の読書習慣を促すとともに、図書館教育の充実など読書活動の推進により豊かな言語能力を養う。
- ⑧ 生徒が授業を大切にしている意識をもつため、チャイム着席・チャイム授業の徹底を繰り返し指導し、定着させる。
- ⑨ 学習記録の確認や調査、面談等多様な方法により家庭学習の状況等を把握し、保護者とも連携

を図りながら、生徒が主体的に学習に臨むよう、家庭学習習慣を確立させる。

- ⑩ 自習室の環境整備を通して、利用を促進し、家庭で学習する動機付けとする。
- ⑪ 探究の見方・考え方を働かせ、地域や社会について総合的な学習を行うことを通じて、自己の進路や目標とする将来についての課題を設定し、自己の在り方生き方を考えながら、問題解決や探究活動ができる資質・能力を育成する。
- ⑫ 「探究 Days」等の教科横断型授業の実施等を通して、生徒の進路希望により幅広く対応できるよう工夫する。
- ⑬ 「未来の東京」戦略等に基づき一人1台端末を利用した授業など、ICTの活用を進める。
- ⑭ 学びの保証等のために、適宜オンラインによる学習を実践する。
- ⑮ 普通教室の教卓と机・椅子を多摩産材で製作されたものへの入れ替えを推進し、生徒の学習環境を整える。
- ⑯ 高等学校DX加速化推進事業を活用し、生徒の理数科目への興味・関心を高めるとともに、備品の充実を図り、教職員の業務の効率化と生徒の学習環境を整える。

(2) 進路指導（生徒の進路希望実現のために）

3年間を見通した進路指導計画に基づくキャリア教育を組織的に進めるとともに、客観的な進路データの収集と、それに基づく最新かつ正確な進路情報の提供と発信に努め、生徒の希望進路の実現を目指す。

- ① 生徒一人一人が将来の職業や専門を踏まえた進路希望を実現するため、進路指導部が主導して3年間を見通した進路計画を立案し、LHRや総合的な学習の時間等を活用した体系的なキャリア教育に取り組み、将来の職業選択を見据えた進路選択ができるようにする。
- ② 生徒が早期に進路目標を立てられるよう、社会人や卒業生、高大連携等も活用しながら進路講演会や進路説明会等を企画する。
- ③ 学年別の「進路便り」を発行し、各学年に応じた進路情報をこまめに発信する。
- ④ 定期考査や実力テスト、模擬試験等のデータ分析を活用して、生徒の進路実現に向けた学力分析や研修会を実施し、学力向上と進路選択のために役立たせる。
- ⑤ 進路調査を実施し、本校生徒の正確かつ客観的な実態把握に努め、そのデータを全職員が共有することで進路指導に役立たせる。
- ⑥ 進路室のインターネットの活用やオープンキャンパスへの参加等を促し、生徒が自ら情報収集できる力を育てる。
- ⑦ 面談週間を利用して1・2年生全員との二者（三者）面談を実施し、本人・保護者との共通理解に基づく進路実現に最善な科目選択ができるようにする。
- ⑧ 6月第1週に夏期講習の講座数・日程を生徒・保護者に周知し、生徒に夏季休業中の学習計画を立てさせる。
- ⑨ 休業期間以外でも希望者を募り多くの教科・科目で補習講習を行い、生徒の進路実現に努める。
- ⑩ 資格取得に向けた講習を実施し、英語検定・漢字検定等の資格試験に積極的に取り組ませる。

(3) 生活指導（豊かな人間形成のために）

都立高校生活指導指針に基づき、全教職員の共通理解のもと、基本的生活習慣と規範意識を高める指導を徹底することで、落ち着いたおだやかな校風を維持する。

- ① 生徒が納得できる指導を全教員が一致して行えるよう、指導基準や指導方法について年度当初に生活指導部中心に再確認を行うとともに、体罰根絶への意識を徹底する。
- ② 学校生活のルールを生活指導部主体に整備し生徒に周知する。制服の着用指導の徹底など、頭髮・服装・身だしなみの指導を定期的・継続的に実施する。
- ③ 学年を中心に、遅刻指導を継続的に実施し、時間を意識して行動する姿勢を培う。
- ④ 生命を守るという観点から自転車乗車時のヘルメット着用を推進し、校内において保管場所を確保する。
- ⑤ 駐輪指導や清掃指導、学校生活のルールを遵守することの指導等により、生徒が気持ちよく学

習に取り組める環境を整備する。

- ⑥ 全生徒が気持ちのよい挨拶が出来るように様々な場面を活用して意識啓発を行う。
- ⑦ いじめ防止基本方針に則り、いじめのない校風を維持するため、いじめは絶対許さないという毅然とした態度で、生徒に意識付けを行う。
- ⑧ 生徒に命の大切さを伝え、生徒同士が常に思いやりをもって学校生活を送らせるとともに、教員は生徒の相談などを受け入れる体制を作り、いじめと自殺の未然防止に努める。
- ⑨ 公共ルールの遵守やSNSルールに基づくインターネット・携帯電話等の適正な利用についての指導を計画的に実施する。
- ⑩ 教科「人間と社会」を通して、より良い生き方を主体的に選択し、行動する力を育成する。

(4) 特別活動・部活動（生き生きとした高校生活のために）

文武両道を目指して、部活動と学習との両立を図りながら部活動を活性化させるとともに、体育祭・公孫樹祭等学校行事の充実を図る。

- ① 生徒の部活動への加入率・継続率を高め、積極的で活力のある充実した学校生活を送らせる。
- ② ホームページやSNS、部活動掲示板等を有効に活用し、日々の活動状況や成果を学校内外に積極的に公表し、活動の動機づけとする。
- ③ 補習等と部活動が重なった場合の補習優先の原則、活動時間の厳守、帰宅後の有効な時間の使い方等時間管理の指導の徹底を図り、限られた時間内での計画的かつ効率的な活動を促す。
- ④ 部活動単位での自学自習を推奨する。
- ⑤ 生徒会組織を活発に機能させることで、生徒が自ら考え、主体的に判断・行動できる場面を意図的に設定しながら、生徒に自信と当事者意識を持たせ、生徒の学校行事への満足度を高めることができるよう指導する。
- ⑥ 創立 50 周年へ向けて行事等との連携を図り、生徒の学校への帰属意識を高める。

(5) 安心安全と健康づくり（安心安全と健康で豊かな高校生活を保証するために）

心身の健康と安全に対する意識を高め、健全育成を支援する。校内の美化を徹底し、学習環境を整えて、豊かな学校生活を送らせる。

- ① 防災訓練の実施を通じて、災害時の心構えや対応方法を身に付けさせるとともに、東京マイタイムライン等を活用し、防災教育を充実させ被災者の支援を主体的に行うことのできる資質や能力を養う。
- ② セーフティ教室や保健の授業を通して薬物乱用防止の指導を徹底し、交通安全教室や生活講話、保健指導等により命を大切に、安全教育プログラムを活用して自らの健康を適切に管理できる能力を育成する。
- ③ 「体育健康教育推進校」の取り組みを通して健康で活力に満ちた生活をデザインする資質や能力を育成するため、具体的取組を研究開発するとともに、成果を広く発信することを通して、体育健康教育の推進を図る。
- ④ 授業や保健指導の中で食生活の基本や心身の健康管理について指導し、生徒の意識を高める。
- ⑤ 体育授業の工夫、体力テストの活用、部活動の活性化や健脚大会完歩への取組等において、体力向上を推進し、心身共に健康で、しなやかさを備えた生徒を育成する。
- ⑥ スクールカウンセラーを活用し心身の健康に不安を持つ生徒・保護者に対する相談支援体制を整える。通級指導の導入にともなう特別支援教育についての研修を実施する。
- ⑦ 美化委員会を活用し、校内美化に対する生徒の意識を高める。
- ⑧ ゴミの分別と外部から持ち込んだゴミの持ち帰り指導を徹底する。

(6) 募集・広報活動（本校のよさを都民にアピールし、志願者を増やすために）

全教職員の協力体制に基づいて、本校の良さをアピールする、組織的かつきめ細かな募集対策の充実を図る。

- ① 新入生に対するアンケートを実施し、その結果も踏まえた募集対策の年間計画を作成する。

- ② 学校案内を適宜見直し、生徒が参画するなど中学生とその保護者に本校の特色、教育活動の取組と成果を強くアピールできるものとする。
- ③ 生徒の作品等を校舎内に飾ることで、学校内外への教育活動の可視化（見える化）を図る。
- ④ 都立高校 P R 事業の「学校見学会開催の一部外部委託」を活用し、夏季休業中の学校見学を一層充実させアピールの場とする。【20回】
- ⑤ 中学校訪問、夏季休業中の学校見学等の募集活動を全教員で組織的に実施する。
- ⑥ 都立高校合同説明会、塾主催説明会等に積極的に参加し、塾対象の説明会を開催する。
- ⑦ 体験授業や体験入部、出前授業や中学生対象の公開講座等を実施し、中学生に本校の授業や部活動の様子を知ってもらう。
- ⑧ 部活動や学校開放事業（施設開放、公開講座）を通じた地域交流・地域貢献を積極的に進める。
- ⑨ H P 等の通信機器を活用し、進路実績や部活動、学校行事等、教育活動の様子や保護者への連絡等をタイムリーに発信し、本校の教育活動とその成果を積極的にアピールする。

(7) 学校運営・組織体制（本校の使命を達成できる機能的で活力ある組織づくりのために）

校内組織を活性化し、より良い学校づくりを目指した取組等を積極的に支援する校内の協働体制を確立するとともに、教職員の資質・能力の向上を図る。

- ① 学校評価アンケートを活用して課題を明らかにすることで、学校改善に向けた目標の共有化を図り、対応策の検討を学年・分掌等で行う。
- ② 企画調整会議を核にして、学年会・分掌部会との情報の相互伝達と共有化を図る。
- ③ 経営企画室長の事務処理方針に基づき、経営企画室の経営参画を推進する。
- ④ 諸会議の上限時間を設け計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、ライフ・ワーク・バランスの実現を図る。併せて育児休業等取得の意義について周知し男性職員の育児休業取得の促進と産業医と連携して定時外在校時間及びその要因となる業務内容を把握する。
- ⑤ 統合型校務支援システム（C4th）のスムーズな業務を図る。
- ⑥ 教科会等を活用し、カリキュラムマネジメントの充実を図る。各教科内で生徒の家庭学習習慣確立に繋がる授業展開や、進学指導に対応できる授業研究のため、予備校での教員研修を推進する。【国語、地歴・公民、数学、理科、英語の各教科で2名】
- ⑦ 生徒による授業評価や生徒との授業懇談会を実施し、各教員、各教科で授業を改善し、それに基づく校内研修を実施する。
- ⑧ 若手育成研修や中堅教員等資質向上研修の研究授業や授業実践交流会等により、授業実践の共有を進め、高めあう。計画的 O J T により、キャリアアップを図る。
- ⑨ 期間を設け互いの授業参観【年3回以上】や授業力診断を実施する。また、指導教諭による模範授業や先進校視察を行い、教員個々の授業力の向上を図る。
- ⑩ 「主体的・対話的で深い学び」の視点により、探究力の育成を図る授業改善の研修を行う。
- ⑪ 教育課程委員会において、教育課程についての評価・改善を行うとともに、高大接続改善への対応について研修・検討を推進していく。
- ⑫ 教務部校内規程について、諸課題の検討を進めていく。
- ⑬ 感染症防止にかかる業務を継続して学校全体で組織的にを行い、生徒が安心して学校生活を送ることのできる環境を整える。
- ⑭ 自律経営推進予算の計画的な事務執行を進める。
- ⑮ 経営企画室職員と教育職員との連携を強化し、施設検討委員会を中心に、中長期的見通しに立った施設・備品・設備の更新を行う。

(8) 国際理解教育（グローバル人材の育成に向けて）

東京 2020 オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、国際理解教育をすすめ、社会に積極的に貢献しようとする態度を育成する。社会のグローバル化に対応できる人材を育成する。

- ① 令和3年度オリンピック・パラリンピック教育アワード校の成果を受け、環境に配慮した生活を意識し持続可能な社会の一員としての姿勢を身に付けさせる。

- ② 平成29年度の伝統・文化教育推進校指定の成果を受け、JET青年等との文化交流活動により、日本の伝統・文化の良さを発信する能力を培う。
- ③ 自国の文化を大切にし、多様性を尊重できるよう異文化理解を進めるなど、講演会等の国際理解教育に関する取組を推進する。
- ④ 次世代リーダー希望者を指導し、留学を実現させる。

(9) 特別支援教育

- ① 特別支援コーディネーター、養護教諭、担任、SC等が連携し生徒の実態把握に努め、連絡会を開催する。
- ② 西部地区都立学校総合支援連絡協議会等の伝達研修を行い、理解と関心を高める。

2 重点目標と数値目標

(1) 学力向上と学習習慣の確立を図る。

○家庭学習習慣の確立 授業以外の平均学習時間 ⇒

1 学年 1. 7時間以上 (昨年1. 7時間 1時間以上の生徒目標 70%)

2 学年 1. 7時間以上 (昨年1. 2時間 2時間以上の生徒目標 70%)

3 学年 4. 5時間以上 (昨年3. 4時間 3時間以上の生徒目標 80%)

(2) 進路希望の実現に努める。

○共通テスト出願率 ⇒ 85%以上 (昨年85. 0%)

○国公立大学(含認定大学校)合格者(現役・浪人延べ人数) ⇒ 10名以上 (昨年5名)

○早慶上理GMARCH等難関私立大学現役合格者(延べ人数) ⇒ 100名以上 (昨年74名)

○國學院・成蹊・成城・武蔵・明治学院・日東駒専現役合格者(延べ人数)
⇒ 200名以上 (昨年199名)

○長期休業中の講習等の講座数 ⇒ 30講座以上 (昨年26講座)

○生徒の進路指導に対する満足度 ⇒ 75%以上 (昨年75. 0%)

(3) 部活動と学校行事の活性化を図る。

○部活動加入率(5月末段階) 1年95%、全体で85%以上(1年95%、全体85%)

○生徒の学校行事に対する満足度(健脚大会・体育祭・公孫樹祭の平均)
⇒ 80%(昨年 80. 0%)

(4) 組織的かつきめ細かな募集対策を実施し、本校の志願者を増やす。

○学校説明会の参加者数 ⇒ 3回1500名以上(3回、1556名)

○中学校等への訪問(年間の延べ校数) ⇒ 300校以上(昨年321校)

○応募倍率(推薦) ⇒ 3. 0倍以上(昨年3. 3倍)

○応募倍率(一次) ⇒ 1. 6倍以上(昨年1. 64倍)

○ホームページの年間更新回数 ⇒ 250回以上(昨年246回)

(5) 学校評価を活用した学校改善を進める。

○学校評価アンケート回収率(生徒) ⇒ 100%(昨年91. 8%)

○学校評価アンケート回収率(保護者) ⇒ 60%(昨年53. 5%)

○学校評価アンケート回収率(教職員) ⇒ 100%(昨年100%)